

鎌倉の埋蔵文化財12

Buried Cultural Properties in Kamakura 12

平成19年度発掘調査の概要



平成21年3月
鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉の地下には、かつて栄えた中世都市が埋蔵文化財として今でも多く残っています。これらの埋蔵文化財は残念ながら、さまざまな土木工事等によってそのままの姿で保存できないことが少なくありません。工事で失われてしまう埋蔵文化財と現在の市民生活との調和をはかるために、現状保存のかなわない遺跡については発掘調査を実施して可能な限り記録化を図り、その様子を私たちが理解できるようにすると同時に、将来へ伝え活用してゆくこととしています。

鎌倉市教育委員会では発掘調査関係者のご協力を得ながら『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、文化財めぐりでの発掘調査現地説明会、鎌倉駅地下道ギャラリーでの埋蔵文化財パネル展示、遺跡調査・研究発表会などの事業を実施して発掘調査の成果を皆様にご紹介しています。

『鎌倉の埋蔵文化財12』では平成18年度から19年度にかけて発掘調査を実施した遺跡のなかから、代表的なものを選んでその概要をお知らせいたします。本誌をご覧になる皆様にも往時を生きたひとびとの姿が彷彿^{ほうふつ}としてくるのではないのでしょうか。これからさまざまなかたちで発掘調査の成果をご紹介しますよう努めてまいりたいと思います。今後とも、文化財に対するご理解とご協力をお願いいたします。

～目次～

| | |
|--------------------|----|
| 1 今小路西遺跡 | 2 |
| 2 今小路西遺跡 | 7 |
| 3 大倉幕府周辺遺跡群 | 9 |
| 4 国指定史跡 永福寺跡 | 11 |
| 英文要旨 | 13 |

～例言～

◎本書は平成18～19年度に市内で実施した主な遺跡の発掘調査の概要を掲載しました。

本書に掲載した遺跡の調査概要は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。

◎本書の作成にあたり、次の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。

菊川英政・熊谷満・齋木秀雄・山口正紀（50音順・敬称略）

〔表紙写真〕今小路西遺跡（御成町171番1外地点）より御成山を望む。

◎表紙題字は松尾右翠氏に揮毫を、英文翻訳は山藤正敏氏にお願いしました。

鎌倉御家人安達氏の屋敷発見か

今小路西遺跡は市立御成小学校東側に沿って南北方向に走る今小路の西側一帯です。調査地点は現在の市役所の北側、約200メートルにあります。調査範囲は約1600㎡で、発掘調査では奈良・平安時代の遺跡と鎌倉時代中頃から南北朝時代までの遺跡が重複して発見されました(表紙写真・写真1)。ここでは主に鎌倉時代の遺跡についてご紹介します。

発掘調査によって鎌倉時代中頃から南北朝時代の大規模な武家屋敷が発見されました。鎌倉時代中後期の武家屋敷では、道路や溝、堀で区画された屋敷地の中に大規模な掘立柱建物が建ち並んでいたことが判明し、立派な木枠の井戸も見つかっています(写真2・3)。また多種多様の遺物が発見され、地下水位が高かったため多くの漆器も良好な状態で出土しています(写真4・5・16)。

さて、この調査地点一帯は“無量寿院”^{むりやうじゅゐん}という寺院があったとの伝承が残り、武家屋敷も存在したと言い伝えられています。鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』^{あづまかたみ}などでは、この付近は甘縄^{あまなづな}という地名で呼ばれていたことが、近年の研究によって明らかにされています。

甘縄には鎌倉御家人の安達氏の屋敷が存在したことが『吾妻鏡』にもたびたび登場し、神奈川県立金沢文庫に残されている古文書にも「甘縄の城入道(安達時頼)の地」と記されています。これらのことから、この付近には安達氏の屋敷があったことが予想され、今回発見された武家屋敷との関わりが注目されます。



写真1 発掘調査区全景

Plate.1 Full view of the excavated area



写真2 掘立柱建物跡と井戸跡（白丸が柱の穴、白四角が建物の範囲）

Plate.2 Buildings and Wells



写真3 道路と道路側溝

Plate.3 Road and Side grooves



写真4 出土した生活用品(左上:曲物としゃもじ 右上:まな板と刀子 中央:卸し板 左下:卸し皿と箸 右下:すり鉢とすりこ木)
Plate.4 The life supplies were excavated



写真5 出土した漆器 黒漆地に赤色漆を使って文様を描きます。
Plate.5 The lacquer ware "Japan" were excavated

9 人の名前が記された木札 — “^{けいごけばんきやうめよう}警護結番交名” の発見 —

この調査地点の鎌倉時代中後期の地層からは、長さ約40cmで幅約15cmの板が出土しました。この板を洗浄したところ、文字らしき墨書が見つかったため、赤外線照射装置を用いて文字の解読を行いました。その結果、その板には9名の人名と、文永二年（1265年）という年号が記されていることが判明しました。平成20年8月に行われた第18回鎌倉市遺跡調査・研究発表会で専門家による研究検討が行われ、墨書の内容は“3人ずつ3交代で一日中警備をしない”であったと解釈されています。何を警護するかについては、判読が困難で、現在まで議論がなされています。人名はあき満（^{あきみ} 越間）、う志を堂（^{うしをだう} 潮田）、か勢（^{かぜ} 加勢）など、『吾妻鏡』に記されている人物も散見されます。

なお、板は一度割れたものを木釘でついであります。板の裏面は刃物の傷が無数に残り、まな板として再利用されたことがわかります。

出土品に文字が残し、9名もの人名と年号が記された文字資料は全国的にも極めて珍しいものです。この板の内容は鎌倉に住んだ武士にどのような番役（仕事）が割り当てられていたのかなど、武士の生活を伝える重要な情報を提供してくれます。鎌倉時代の武家社会を考える上でも大変貴重な資料であり、今後、研究の進展に大きな期待が寄せられます。

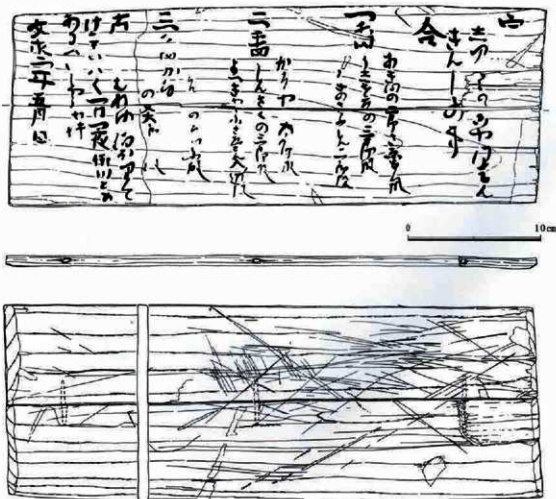


図1 墨書木札実測図

Fig.1 The board where letter is recorded



写真6 墨書木札写真(上)と赤外線写真(下)

Plate.6 Plateograph of infrared ray

| | | | | | |
|---------------|----------|---------------|-------------|----------|---|
| 右 | 三番 | 二番 | 一番 | 合 | 定 |
| □□むね越満本里て | 美王□の□□ふ殿 | か春やの太郎殿 | あき満の二郎さゑもん殿 | 志□□古や□者ん | |
| け堂い奈く一日一夜御川とめ | か勢□ | しんさくの三郎殿 | う志を堂の三郎殿 | きんしの事 | |
| あるへきしやう如件 | ヲの又太郎□殿 | 支へきやうふさゑもん人道殿 | □□きのさゑもん三郎殿 | | |
| 文永二年五月日 | | | | | |



写真7 墨書木札調査風景

Plate.7 Circumstance of investigation

“警護結番交名”とは??

この木札は誰が警護をするかを示す番役表です。この“警護結番交名”の“結番”とは平安時代から室町時代ごろに使用された言葉で、交代制勤務の人々が番（グループ）を組むことを意味します。“交名”とは連名書（名前リスト）を意味します。そのためこの墨書内容を表現する資料名は“警護結番交名”が適当と考えています。ただ、今後の研究の進展によって、より適切な名称が提唱される可能性もあります。

鎌倉時代の三つ辻（丁字路）を発見

本調査地点は鎌倉市中央図書館の南西約100mにあります。本地点の発掘調査では鎌倉時代後期の道路が発見されました。道路部分は約5.4mと幅の広い東西道路と、約2.3mの幅の狭い南北道路が丁字状に交差します。鎌倉市街地では時折、鎌倉時代から南北朝時代の道路が発見されることがありますが、交差点が発見されることは稀で、鎌倉時代の町割りがどのようになされていたかを考える上で、重要な資料といえます（図2、写真8・9）。

道路は“土丹”と呼ばれる泥岩を突き固めて造られており、少なくとも3時期の改修が確認されました。発見された道路はいずれも鎌倉時代後期のものですが、その下層でも同様の“土丹”の堆積が確認されているので、さらに古い時代から同じ場所に道路が造られていた可能性があります。この道路を延長すると、東方向は現在の御成中学校入口の交差点、南方向は“塔ノ辻”の交差点と推測されます（図3）。

塔ノ辻の“辻”とは二本以上の道路が交わった交差点を意味し、“塔”はそこに石塔が置かれていたと推測されます。現在でもこの塔ノ辻は笹目や佐助、由比ガ浜へ抜ける道路の結節点となっています。

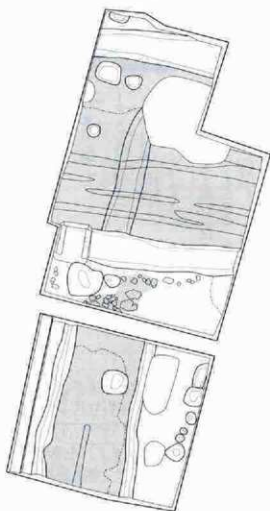


図2 発掘調査区全測図（網掛け部分が道路）
Fig.2 Full view of excavated area



図3 道路延長推定図
Fig.3 Presumption Figure



写真 8 発見された東西道路（北区全景写真）

Plate.8 The east west road were discovered



写真 9 発見された南北道路（南区全景写真）

Plate.9 The north and south road were discovered

3 おおくらばく ふ しゅうへん い せきぐん 大倉幕府周辺遺跡群 (二階堂字荏柄3番6外地点)

Okurabakuhu-Syuhen-Isekigun Sites

荏柄天神社の参道を発見

調査地点は、荏柄天神社参道の西側隣接地に所在します。発掘調査では5時期の生活面が発見され、鎌倉時代初頭から南北朝時代ごろまでの様相が明らかになりました。なかでも調査区の東側、荏柄天神社参道に近接する部分で道路が発見されたことが注目されます(写真10)。

この道路は、2～8ページで紹介した今小路西遺跡と同様に“土丹”を丹念に突き固めて構築されていて、何度も改修された様子が窺えます。道路は幅約3mで長さは約6mが発見され、さらに調査区の南北へ延長するものです。以前に、この調査区の南北の2地点で同様の遺構が発見されていましたが、今回の調査でそれらと繋がることが有力となり、この道路は荏柄天神社へと続く参道であると推定できました。時代は鎌倉時代中頃から南北朝時代ごろと推測され、当時の荏柄天神社参道は現在のものよりも西側にあったことが判明しました(写真11)。

さらにそれより古い、鎌倉時代初期の地層からは、その参道とは違う方向の溝が発見されました(写真12)。鎌倉時代中頃の荏柄天神社の参道の整備に伴って、この地域の区画の方向性が変更されたことが分かります。現在でも荏柄天神社参道の南部分では、参道に沿った区画割りになっています。



写真10 発掘調査区全景(手前が道路遺構)

Plate.10 Full view of excavated area



写真11 発見された道路ー荏柄天神社へ向かう参道
Plate.11 The road were discovered



写真12 荏柄天神社参道とそれ以前の溝
Plate.12 The road and the groove were older than that

平成19年度発掘調査概要

永福寺は、奥州合戦等の戦死者を供養するために源頼朝が建てた寺として知られています。その跡地は、昭和41年に史跡永福寺跡として国の史跡指定を受けました。鎌倉市では、昭和58年から史跡整備のための発掘調査を行っており、これまでに、二階堂・阿弥陀堂・葉師堂と、その両端に伸びる翼廊や、堂の前面に広がる池などの伽藍配置が明らかになっています。寺の東に面する丘陵上では、創建期の経塚も発見されています。

今回の調査地点は、二階堂とその裏側の丘陵に挟まれた場所です（図4）。調査の結果、溝、柱穴、通路などの遺構が発見され、永福寺の敷地内の使われ方が明らかになりました。

溝は幅約2m、深さ約1.5mと大きく、堂の裏にある丘陵裾を直線的にめぐっています。丘陵側の壁は削った岩盤が上方までまっすぐに立ち上がり、大規模な工事であったことが想像できます（写真13・14）。この溝は、永福寺の大修理が行われた寛元・宝治年間（1243～1248年）に開削されたと考えられ、その後大きく3回の造り替えが行われていたようです。溝の肩に沿って並ぶ柱穴からは、目隠しの扉があったこともわかっています。

溝と建物の間には、砕いた貝殻混じりの砂を敷いた通路の跡がありました。何層にも重なっていることから、補修を重ねたものと思われます。ちょうど二階堂の裏に当たる部分では平面十字形の柱の穴も発見されました。過去の調査でも存在が明らかになっていましたが、今回、その総数と配置がわかりました。儀式に使う竿などを建てるために掘ったものとも考えられます。

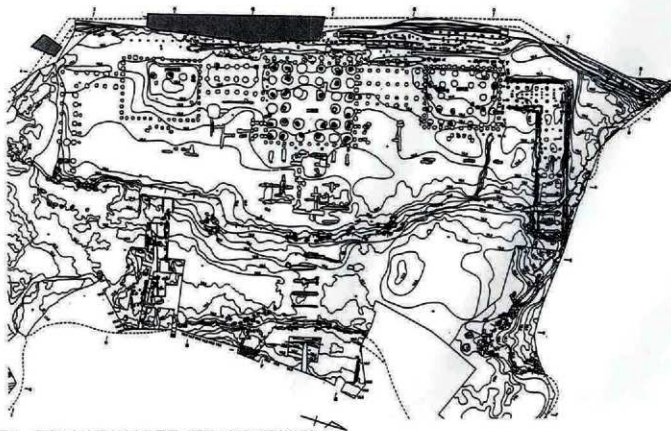


図4 平成19年度調査地点位置図（網掛け部分が調査部分）

Fig.4 Full view of excavated area.



写真13 発掘調査区全景

Plate.13 Full view of the excavated area



写真14 発見された溝

Plate.14 The groove were discovered



写真15 出土した瓦と調査風景

Plate.15 Circumstance of investigation

Buried Cultural Properties in Kamakura 12

1.Imakoji-Nishi-Iseki Site (Onarimachi 171-1)

Was the residence of Adachi clan uncovered?

The excavated area is located at the northern side of the city hall. Through this excavation, it has become clear that the site consists of 2 parts: one is dated to Nara/Heian period and the other is dated to middle Kamakura to Nanboku-chou period. In the present paper, the site dated to Kamakura period will be mainly explained.

In the excavation, a large residence dated from middle Kamakura to Nanboku-chou period was found. A road, a ditch, and a large remain of shacks supported by pillars without foundation were found in the site of the residence; they belong to mid- or late Kamakura period (Plates. 2, 3). Various artifacts were discovered in good condition (Plates. 4, 5, 16). The surround area was called "Amanawa" and it is assumed that the residence of Adachi clan, a Kamakura Gokenin who served Shogun, had been situated in this area. Therefore, the remains of a residence discovered in the present excavation is likely to have belonged to Adachi clan.

2.Imakoji-Nishi-Iseki Site (Yuigahama 1- 151-1)

T-shaped road dated to Kamakura period was found.

This excavated area is located at about 100m southeast from Kamakura city central library. In the area, a road dated to late Kamakura period was found. This road consists of one wider road running east to west, about 5.4 m in width, and the other narrower one running south to north, about 2.3 m in width. And these roads cross in T-shape (Fig. 2, Plates. 8, 9).

It became clear the road had been repaired three times in the past. All parts of the roads are dated to late Kamakura period. Stretching the road further, it is assumed to reach the present crossing in front of the entrance of Onari junior high school to the east, and the crossing at "Tou-no-tsuji" to the south (Fig. 3).

3.Okurabakuhu-Syuhon-Isekigun Sites(Nikaido3-6)

An approach to Egaraten shrine was uncovered.

This excavated area is located at the western part of the approach to Egaraten shrine. In the excavation, a road was found in the vicinity of the present approach to Egaraten shrine.

The road uncovered measures ca. 3 m .width and ca. 6 m length. It is assumed the road was used as an approach to the shrine. This road could be dated from middle Kamakura to Nanboku-chou period. It became clear the approach to the shrine was located further west than today.

Moreover, a ditch that was not parallel with the sacred approach was found in the earlier layer dated to early Kamakura period. It has become clear the direction of division of the area was changed in middle Kamakura period when the approach to Egaraten shrine was repaired (Plate 12).

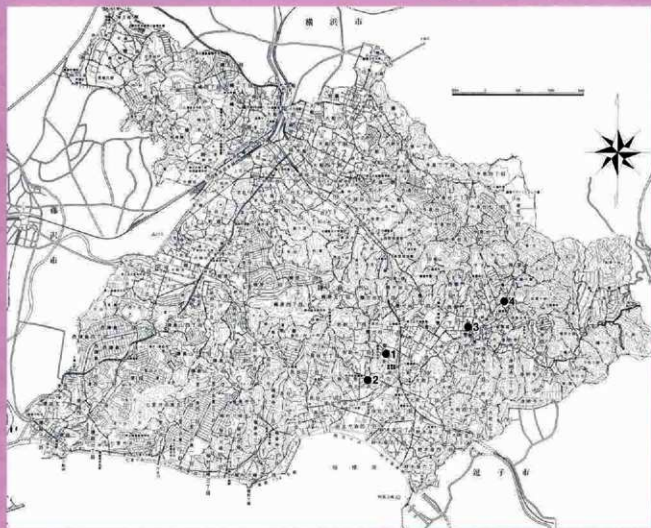
4.Yofukuji temple site

Preliminary report in 2008

It is famous that Yofukuji temple was erected by Yoritomo Minamoto, the first Shogun of Kamakura shogunate, in order to hold a memorial service for the deceased at the Oushu war and other battles. In this time, the excavated area is located between Nikaidou and a hill behind it (Fig. 4). As a result, a ditch, a posthole, a passage, and so on were found. This ditch, which measures ca.2 m in width and ca.1.5 m in depth, goes straightly around the foot of a hill behind the temple building. Since the hillside of the ditch was cut vertically from the upper part of rock, it seems this construction was worked extensively (Plates 13, 14). This ditch seems to be have been dug between Kangen and Houji periods (1243-1248 AD), when Yofukuji temple was extensively repaired. Remains of a passage with crushed shell-mixed grits and a cross-shaped posthole were found between the ditch and the building. It is assumed a posthole was dug in order to erect a pole and the like that served for ritual



写真16 操り人形 今小路西遺跡出土 (御成町171番1外地点)
Plate.16 The marionette was excavated



(鎌倉市発行の25,000分1地形図)

《掲載遺跡名称及び所在地一覧》

1. 今小路西遺跡 (御成町171番1外地点)
2. 今小路西遺跡 (由比ガ浜一丁目151番1地点)
3. 大倉幕府周辺遺跡群 (二階堂字窪納3番6外地点)
4. 国指定史跡 永福寺跡

鎌倉の埋蔵文化財12

| | |
|-------|------------|
| 発行日 | 平成21年3月31日 |
| 編集・発行 | 鎌倉市教育委員会 |
| 印刷 | グランド印刷株式会社 |
